

# 事業報告

講座名	希少野生動植物種保護支援員研修会（第1回）		
日時	平成27年10月12日（祝・月） 9:30～16:00		
場所	きらら交流館、本山岬、竜王山及びその周辺	参加者数	19人 (県民32人)

## 1. スケジュール

9:10～9:30	集合、受付
9:30～9:35	開講式
9:35～10:05	講義「支援員の役割等について」
10:20～12:00	野外観察「竜王山公園の山野草、アサギマダラの観察等」 ※自家用車で竜王山公園駐車場へ移動
12:10～13:00	昼食、休憩
13:00～13:40	講座「竜王山及びその周辺の四季、自然などについて」
13:45～14:00	紙芝居「竜王山アサギマダラのマーくん」
14:10～15:40	ハマセンダン・本山岬探訪 ※自家用車で移動（2か所）
15:40～	アンケート記入、解散

## 2. 活動内容

午前中は、きらら交流館で、山口県自然保護課田中敦氏による「支援員の役割等について」の講義を行った後、竜王山公園駐車場に移動し、山野草やアサギマダラの観察会を行った。

午後からは、きらら交流館で本山会の嶋田紀和氏による「竜王山及びその周辺の四季、自然について」の講義等を行った後、本山岬等に移動し、「くぐり岩」やハマセンダン等を観察した。

## ◇ 講義

### ◆ 「支援員の役割等について」

自然保護課 田中敦氏

PWPにより説明（別添資料参照）

#### ◎希少野生動植物種保護支援員について

##### ○支援員の活動は？

- ナベヅルの保護活動など
- 希少野生動植物保護の普及啓発活動
- 自然環境の保全活動への参加
- 動植物の観察会等への参加
- 新規登録への案内

##### ○レッドデータブックやまぐちについて

- 平成13年に作成したRDBの改訂に着手
- 平成30年3月作成を目途に検討委員会で調整中



〈RDB掲載例〉 ツキノワグマ、ナベヅル、オオウラギンヒョウモン、キビヒトリシズカ  
ホンシュウジカ

○北九州市におけるツマアカスズメバチの確認について

本年8月に北九州市で確認されたツマアカスズメバチの特徴、見分け方等

### 【野外観察「竜王山公園の山野草、アサギマダラの観察等」】

講 師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏、松永聡氏（本山会）

自家用車で竜王山公園中腹の駐車場へ移動し、3班に分かれて野外観察を行った。各指導者のもと、駐車場から竜王山山頂（展望台付近）まで行くコースを歩き、見られる山野草の説明等を聞きながら観察した。駐車場のすぐ近くにヒヨドリバナ等を植栽した花壇があり、数頭のアサギマダラを観察することができた。

この日は朝から雨も降り、風も強かったので、アサギマダラが少なく、その後向かった別の場所でも数頭しか見られなかった。

アサギマダラの主な活動時間は午前が10～11時、午後が3～4時の1日2回で、風のない暖かい日に多く見られる。アサギマダラは人を怖がらないので、近づいてきた時は簡単に捕まえることができる。捕まえると死んだふりをするが、放つとまた飛ぶ。

本山小学校の児童がマーキング（見つけた日時、場所等を記入）した蝶を捕まえ、確認することができた。

ヒヨドリバナ等の近くを飛んでいるのはほとんどオスで、ヒヨドリバナ等の花の蜜に含まれるアルカロイド（毒）を吸ってフェロモンに変えると紹介された。アサギマダラは4ヶ月の命で、南から日本に渡ってきて、北で繁殖し死ぬので、また南に帰ることはない。北で生まれた子どもが南に移動し旅を繰り返す。移動距離は最高で2,500kmと言われ、和歌山からホンコンまで飛んだ蝶が確認されている。1日に100kmから200km移動すると言われ、海上では海に降りて休む。体長は約10cmでアゲハチョウと同じくらいで、4枚の薄くて丈夫な羽根があり、触っても鱗粉が付かない。羽根に黒い点があるのがオス。気温に敏感で23℃が適温なので寒くなると竜王山から南に移動する。春には南から日本にやってきて姫島でも見られる。夏は北アルプス等の高山で過ごす。広島県の恐羅漢でも見られる。

車道の脇を歩いて山頂へ向かい、展望台を經由して駐車場へ戻るコースを歩き、花が見られる植物と一緒に、この時期以外に咲く植物の群落（ウマノアシガタ、ルリハコベ、ヒトリシズカ、ウバユリ等）も紹介された。特にヒトリシズカは群生して多く見られるので看板も設置し、観察路も作ったとのこと。また、ツルニンジンの群生地があり、約400本の株がもみじ谷にある。ここで見られるヒメボタルは、森の中全体に見られ圧巻。



また、この時期咲いているヒヨドリバナ、サケバヒヨドリ、サワヒヨドリ、サイヨウシャジン、シロヨメナ、ノコンギク、ヤマハッカ、モリアザミ、ジュズダマ、ゲンノショウコ、イヌタデ、ミゾソバ等を観察することができた。

竜王山では3種類のアザミが見られ、この時期に咲くのはモリアザミとヨシノアザミで、他は春に咲くノアザミ。モリアザミは2000年よりロープを張って保護地域にしている。

## 【講座「竜王山及びその周辺の四季、自然などについて」】

講師：嶋田紀和氏（本山会）

きらら交流館で、竜王山の自然や見られる動植物、保全活動等について説明を受けた。

竜王山は、公園として管理され、草刈り（年2回）等の人の手が入って維持される二次的な自然であり、特に山野草については海岸性植物と山地性植物が混在していて種類が多く、群落が多く見られることが特徴である。アマナやコバノタツナミ、ウバユリなど写真を示しながら植物の紹介があった。昆虫ではヒメボタルやアサギマダラが紹介された。

竜王山に生息するヒメボタルは日本固有種の陸生ホタルで、体長は1cm、発光時間は0.5秒と短い。陸生のキセルガイをエサにしている。ヒメボタルが飛び交う時期には、観察会の実施のほか車道の通行を時間規制する（2009年以降）等の保全活動も積極的に行っている。

アサギマダラは、春には西南諸島から本土、秋には本土から西南諸島へと、一定の温度を求めて移動する「旅するチョウ」である。竜王山に自生するアサギマダラが好む3種（ヒヨドリバナ、サワヒヨドリ、サケバヒヨドリ）の花の種から苗を育て植栽する活動「アサギマダラおいでませ作戦」を2009年から実施しており、本山小学校の「緑の少年隊」をはじめ、地元住民と一緒に苗づくりや植栽、草刈りなどの活動を行っている。今年は植栽に一般の人が70人参加し、1人がヒヨドリバナを10本植えた。

このほかにも本山会は竜王山周辺マップ作成、山野草の説明板設置（看板によるアピールと盗掘防止）、ハマセンダンの市天然記念物指定へのはたらきかけ、休耕田を利用したビオトープ作り等、ボランティア活動の範囲を広げている。今後、市民の参加をさらに呼びかけ保全活動を進めていく。

## 【紙芝居上演「竜王山アサギマダラのマーくん」】

講義後、山陽小野田語り部の会で制作した紙芝居「竜王山のアサギマダラのマーくん」を嶋田氏に上演いただいた。

アサギマダラの生態を紹介するとともに、竜王山に生息するコゲラやヒメボタルも登場し、竜王山の自然についても紹介する内容だった。



## 【ハマセンダン探訪、本山岬】

講師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏（本山会）

観察場所の駐車スペースが狭いことから、2班に分かれ、自家用車で観察場所まで移動した。

ハマセンダンはミカン科の木で幹周りは5.2m。2013年5月に市の天然記念物に指定された。樹齢は250年前後と見られる。木肌はゾウに似た色・質感をしている。ハマセンダンは雌雄異株だが、確定には至っていない。周囲にはロープを張り、根が傷まないように保護し、見やすいように周りの樹を伐採している。

焼野海岸では緑色変成岩が見られ、青緑っぽい色をしている。3億年から2億5千年前に大陸プレートで運ばれてきた。地上で風化すると粘土になり、昔、これで須恵土器が作られた。竜王山でも緑色変成岩が見られる。

本山岬の観察日程を午前から午後に変更したため、干潮となり、下の浜辺に降りて、くぐり岩などの奇岩を観察することができた。本山岬は小野田の半島の一番先端で、古地図にも表記がある。瀬戸内海には岬が28か所あり、そのうちの一つが本山岬。赤崎の地名は海から見ると岩が赤く見えるため。



## 4. まとめ・感想

支援員22人（一般県民39人）の参加申込者があり本山会の協力で全員参加としたが、当日は51人（支援員19人、県民32人）の参加となった。

当日は朝方雨が降り、風も強くてあまり良い天候ではなかったが、竜王山等の野外観察会は小雨程度で何とか傘をささずに活動することができた。

多くに参加者が目当てにしていたアサギマダラは風が強かったため、数頭程度と少なかったが、ヒョドリバナに寄ってくるアサギマダラを近くでじっくり観察できたので良かった。

午後からの観察場所の本山岬とハマセンダンの駐車場は狭く全員が一度に駐車できないため、参加者を2班に分けて移動する予定であったが、きらら交流館の駐車場から出る際にほとんどの者が嶋田氏の車の後を付いていったため、本山岬の駐車場が大混雑となり、大変時間をとったため、終了時間が30分以上延びてしまった。しかし、今回初めて干潮時間での観察となり、本山岬の下の浜辺に降りて「くぐり岩」などを観察できたので参加者の皆さんは大変喜んでおられた。

1日を通して講師を務めていただいた本山会の嶋田紀和氏の講義や説明は、多くの写真を提示したり紙芝居を上演したりと、理解しやすく親しみやすい内容でとても好評だった。野外観察の際も、参加者の状況に配慮していただき、とてもありがたかった。

竜王山は管理が行き届いて観察しやすい場所なので、来年以降も観察会を継続して行いたい。